

全日本合唱連盟 ガイドライン公表

6月29日、全日本合唱連盟は「合唱活動における新型コロナウイルス感染症拡大防止のガイドライン第1版」を公表しました。6月23日に東京都合唱連盟が全日本に先駆けて公表したガイドラインも包含する内容で、満を持して策定したと思われる。このガイドラインは、政府の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」(基本的対処方針)及び事務連絡「移行期間における都道府県の対応について」(都道府県の対応)に基づいて策定されています。

内容は『合唱活動で考えられる新型コロナウイルス感染リスクと対策の骨子』として一覧表にまとめられています。とくに真新しい項目はありませんが、合唱活動全体に言及しており、一つの指針となりうるものです。以下のような事項が上げられています。

- 利用施設：スペース、換気、衛生面への配慮
- 健康管理：名簿管理、健康管理
- 当日の練習前後：体調チェック、マスク等の装着、衛生管理、会場設営・撤収、備品の取り扱い、楽譜やプリント類の配布・回覧、ミーティング、休憩、会食への配慮
- 当日の練習時：団員・指揮者・ピアノの配置は適切な距離・対面にならない並び方の工夫、発声を伴わないウォーミングアップ・身体的接触のないよう注意、発声・歌唱・咳エチケットの注意、楽譜等の共有を避ける、発声指導・歌唱指導では身体的接触を避ける、常時換気できない場合は、30分に1回、5分以上の換気を行う。

また、イラストで分かりやすくまとめた「感染防止対策汎用版」もあります。

施設については、「都道府県の対応」に記載されているイベント開催に係る段階的緩和として「屋内にあっては収容定員の半分程度以内の参加人数にすること。屋外にあっては人と人との距離を十分に確保できること(できるだけ2m)。」とされていることに基づき、以下のような留意点が示されています。

屋内施設では、収容定員の50%以下の人数とする、窓の開放が可能で二方向に窓が設置されているのが望ましい、窓の開放が不可能の場合、機械換気が十分にされている、感染予防対策が徹底されているなど。また、ピアノの消毒にはアルコールではなく専用のクリーナーを推奨し、YAMAHAの「ピアノの除菌方法」を引用しています。

http://yamaha.custhelp.com/app/answers/detail/a_id/1460

これによれば、ヤマハでは、経済産業省・NITE(独立行政

法人製品評価技術基盤機構)の情報に基づいて、ピアノの鍵盤、外装等の除菌には、アルコール消毒液を避け、台所用中性洗剤の使用を推奨しています。

水500mlに、中性洗剤1.5g(ペットボトルキャップ約1/3)の割合で希釈した溶液に柔らかい布を浸し、固く絞ってから拭き、5分程度経ったら別の布で水拭きと乾拭きを行う。

次亜塩素酸ナトリウム溶液を使用する場合は、水500mlに、2.5g(ペットボトルキャップ約1/2)の割合で希釈した溶液を用いて中性洗剤と同様に用いる。但し、金属部分や鍵盤奥のフェルト部分、機能付きピアノのコントロールユニット部分は拭かないよう注意が必要。

出揃いつつあるガイドライン 動き出した音楽活動

音楽関係の感染防止ガイドラインは各団体から次々と公表されています。但し、吹奏楽の元締めである全日本吹奏楽連盟はまだ公表していません。

愛知県吹奏楽連盟では、加盟団体に向けて「吹奏楽部の活動再開に向けたガイドライン」(5月25日)を公表し、三密の排除とともに、「生徒を一部屋に集めての合奏練習やミーティングを避ける」「生徒同士の距離をとってパート練習を行う」「個人練習を活動の中心にする」と限定的な活動を推奨しています。

一方、熊本県吹奏楽連盟では、吹奏楽コンテスト高校の部を無観客で8月10・11日に開催すると6月29日発表しました。1団体の人数上限は60名、スキヤットや歌唱は禁止とし、仮に楽譜に指定されていても他の楽器で代用するよう条件が付けられています。

クラシック音楽公演運営推進協議会のガイドライン(6月11日)では、公演実施上の留意点を示しましたが、人と人との間や、舞台と客席の間などは2m以上(最低でも1m)の距離を確保するよう求めています。

これを受けての対応かも知れませんが、**N響**は6月30日、2020-2021シーズン定期公演をすべて休止と決定しました。感染対策をとって会員の指定席で鑑賞するのは困難との判断です。さらに海外からの渡航制限や舞台の安全確保の観点からも予定していた公演の開催見通しは立たないとしています。

三重県文化会館は、「マイベストシート コンサート」と題するピアノの演奏会を7月19日昼夜2回開きます。1,903席の座席に対して各回100名、料金は1,000円、ピアノは兼重

稔宏さん、ベートーヴェン中心のプログラム、公演時間約100分(休憩含む)です。「新型コロナウイルス感染症に係る県主催のイベントの開催基準」に則っての開催ですが、間違いなく採算度外視でしょう。

大阪コレギウム・ムジクムでは、「『新型コロナウイルス』感染予防のための指針」(6月20日新改訂)を策定し、一般的にいわれている内容に加え、独自の「**OCM マスク**」の着用を義務付けるとともに、団として石鹼と消毒用アルコールを用意すると規定しています。また、10～15分間隔で窓やドアを開けて換気します。

加藤登紀子さん三密を避けてコンサート

歌手の加藤登紀子さんが、6月28日渋谷のBunkamuraオーチャードホールで加藤登紀子コンサート 2020『未来への詩』と題する2回公演のコンサートを開きました。

オーチャードホールは、コンサート・オペラ・バレエ用のシューボックス型ホール、orchardは果樹園のこと。客席数2,150席に対して「三密を避ける」ため、一席おきに指定し、1,000人が入場していました。

現在のガイドラインでは「人と人との間隔を2m(最小1m)開ける」とされていますので、果たしてこの条件を満たすのかどうかギリギリの距離でしょうか。また、マスク持参、サーモカメラによる検温、手指の消毒、ソーシャルディスタンスを保つよう要請し、37.5度以上の方は入場できない、ビュッフェや自動販売機、クローク、喫煙所も使用不可、換気のため開演中の扉開放、車イス席はなしと苦心のあとが窺えます。

ソーシャルディスタンスについては、現在いろいろ議論がある中、大阪府では「新型コロナウイルス対策本部専門家会議」の意向を受け、府知事が「コロナが空気感染しないという意見があり、そうであればソーシャルディスタンスのガイドラインが正しいのか早急に見直す」と発表しています。

「コロナの感染は発症前後数日がウイルス伝達しやすいが、発症後7日以降は体内に抗体ができ、ウイルスを伝達しない。空気中にウイルスは飛ぶが感染しないレベル」とし、現在のソーシャルディスタンスのガイドラインについては「満員電車でも、1人ひとりが黙っていたり、マスクをしていればまったく問題ない。接触機会よりも感染機会を減らすべき」と提言しています。

社会経済を考慮すると「人と人との間隔を2m(最小1m)開ける」という基準も見直しを迫られていると思われます。

一方、厚労省のHPには「イベントの開催に関しては、入退場時の制限や誘導、待合場所等における密集の回避、手指の消毒、マスクの着用、室内の換気等の、適切な感染防

止策を講じた上で、一定の収容率や人数を目安とし、開催することも可能」としており、段階的緩和の目安として「6月19日以降は屋内の場合、収容率の50%以内、人数上限1,000人」とされているのを受けての公演と思います。

フェイスシールドの役割

今や一般の人までが新型コロナウイルス対策としてフェイスシールドを着用するようになりましたが、本来は医療用の装具です。その目的は、医療従事者が患者の血液や体液等で汚染される可能性がある場合、眼の粘膜等を守るためのものです。

眼は粘膜が露出しており、感染するリスクが健全な皮膚に比べてかなり高いといわれています。この逆に医療従事者が無菌的処置をする際、医療従事者の眼等に付着している埃や病原体に患者が曝露されるのを防ぐためにも用いられます。

そこで、吹奏楽器の演奏や歌唱のときにも必要というようなガイドラインが散見されますが、果たしてどこまで必要なのか、効果はどのようなのでしょうか。

例えば、地方独立行政法人・静岡県立病院機構が2月に出した「新型コロナウイルス対策(DPAT用)」では、「基本的には、過剰に反応することなく、インフルエンザと同様に、まずは咳エチケットや手洗い等の感染症対策を行うことが重要です」と書かれています。DPATとは、災害派遣精神医療チームのこと。救急救命医療チームDMATがさらに精神疾患患者に特化したものでしょうか。

患者を救急搬送する際、通常は患者にサージカルマスクを着用してもらいますが、それが受け入れられない場合、DPAT隊は自らを守るためにN95マスクとフェイスシールドを着用します。しかし、客船などで感染症が発生した場合を例にとると、乗客との面接が、換気されている空間で、かつ乗客がサージカルマスクを着用しているなら、DPAT隊はフェイスシールド不要、マスクもサージカルマスクでよいとしています。

男声合唱団コール・グランツ(埼玉)の「感染防止ガイドライン」にはフェイスシールドを盛り込みませんでした。

最近、マスクに取り付けられる使い捨てのフェイスシールド(写真)が出てきました。マスクの紐を通して固定します。便利かも知れません。



ところで、プラスチックのマスク、つまり眼は覆っていませんが、これをフェイスシールドと称するケースを見かけました。余計な事かも知れませんが、眼を保護しないのであればフェイスシールドとは呼ばない方がよいように思います。